

〈解答〉

- ① 1 にぎ 2 しゅうねん 3 かんがい 4 往復 5 険 6 臨
- ② 1 イ 2 エ 3 カ 4 ア 5 キ 6 ウ 7 オ
- ③ 9 コ 10 ケ 11 ク 12 イ 13 キ 6 サ 7 カ 8 オ

配点各1点 26点満点

〈解説〉

- ① 「握」の音読みは「アク」で、握手・掌握・把握などの熟語がある。「手に汗を握る」とは「見ていて緊張したり興奮したりする」の意。
- ② 「執」の訓読みは「と(る)」。「執念」とは「深く思いこんで動かない心」。
- ③ 「感慨」とは「深く感じてしみじみとした気持ちになること」。
- ④ 「往復」とは「行くことと帰ること」。
- ⑤ 「険」の音読みは「ケン」で、険悪・危険・冒険・保険などの熟語がある。
- ⑥ 「臨」の音読みは「リン」で、臨海・臨機応変・臨時・君臨などの熟語がある。
- ② ア 「くのように」などを使って直接たとえる表現。「山のように高く」。
- イ 「くのように」などを使わないでたとえる表現。「山とつまれた書類」。
- ウ 動植物や事物などを人間になぞらえて表現する比喻。「春風のささやき」。
- エ 対になる二つの句を並べて、調子を整えたり、感動を高めたりする表現技法。「山の緑」と「海の青さ」の関係。
- オ 同じ語句をくり返し、感動を高める表現技法。「どこまでも、どこまでも」。
- カ ことばの順序を逆にして、感動を高める表現技法。「もてる力をふりしぼって、少年は走った。」が普通の語順。
- キ 行の終わりを体言(名詞)で止め、余韻を残す表現技法。「初老の男。」
- ③ 漢語や外来語に対して日本に古くからあったことばを「和語」という(漢字の訓読みを含む)。和語には正しい意味をつかんでいないものが案外多いので、国語辞典などで確かめておくこと。